日中友好新聞

府連通信

2015年１０月号
日本中国友好協会大阪府連合会
〒530-0012
大阪市北区
芝田2-3-19
東洋ビル本館207
TEL06-6372-8131
050-3413-6491
FAX06-6372-8132
郵便振替口座
00970-5-8978
新しいアドレス
E-mail: info@jcfaosaka.org
ホームページ
http://jcfaosaka.org/

日中友好平和の旅 長谷川テルさんの遺児・暁子さんと陵墓を訪ねる

九月十一日～十六日、日中大阪府連主催で中国東北地方のジャムスへ、二十名の参加者と緑川英子（長谷川テル）・劉仁さんの遺児長谷川暁子さんと共に陵墓を訪ね、各地の記念館を巡ってきました。

この旅の主な目的は「日中戦争中に中国側からラジオ放送で日本軍将兵に対して侵略戦争を批判し、戦争加担をやめるよう訴えた緑川英子（長谷川テル）劉仁ご夫妻の陵墓を訪ねることでした。」暁子さんは自分の祖国である日中双方がとても仲の悪いことに心を痛め、日中友好を考えている人たちとともに、母テルさんの墓参を考え、この旅行を企画したものです。

ハルピン、牡丹江、長春では日中戦争記念館などを訪問、方正では置き去りにされ犠牲になった日本の開拓民のための公墓を訪れ追悼の気持ちを表し、紀念館の展示を見ました。

テルコーナーで暁子さん

ジャムスの烈士陵園（長谷川テルさんのお墓）では、新聞社四社とテレビ２社など、休日にかかわらず多くの方の出迎えを受けました。

お墓を清掃する暁子さんと報道陣

先ず記念碑前で大阪府連と暁子さんの花籠を献花し全員で黙祷を行ない、次にテルさん、劉仁さんの墓前へ。大阪府連と暁子さん、人民政府のお花を飾り全員で黙祷しました。

墓前では日本側山本恒人団長と、佳木斯人民政府李外事弁事責任者が挨拶を行ない、最後に暁子さんが「大阪からたくさん来ていただき大変うれしい、中国政府と人民から育てられた恩を忘れてはいけないよ！とお母さんの声が聞こえるようだ」とお話をされました。

佳木斯人民政府では副市長と和やかに会談を行ないました。

（今号では西宮の小川さんと堺の浅田さんからの感想を掲載します）

面白くて、悲しくて、いろいろ考えさせられた旅

西宮　新日本婦人の会　小川　碧

面白かったのは、寝台車での徐さん夫婦（六七才夫陽気、妻シャイ）との交流でした。旅行のチラシを見せ、日中友好協会だと理解してもらったら「日本帝国主義に反対した人だな」と、長谷川テルさんの事を知っていました。（ガイド尾川さん通訳）

それからは、「戦争法案反対」のステッカーや「赤旗」を見せて「アベ、ノー」とこぶしを振り上げるポーズをすると、分かってくれました。次に「北国の春」を歌うと、徐さんは歌が好きで、大きな声で歌いだし「♪カエロカナー♪」とマネしていました。

山本範枝さんが助っ人に来てくれて「草原情歌」も歌えることがわかりました。折り紙は「ひっくりカエル」が楽しくて、徐さんは何度も挑戦。力の入れ加減を教えてあげると成功。拍手してあげると、はまっていました。

奥さんとは「あやとり」をすると二人取りができました。徐さんが「中日友好は新しい段階に入ったゾ」と言ったそうで私たちは吹き出してしまいました。

お別れの時は写真を撮ってあげて「再見」と握手しました。

ジャムスの烈士陵園

この事が一番楽しい思い出になりました。

悲しかったのは、方正の日本人墓地でした。記念館には、一家全滅と分かる記録も。（ああ、この一才や二才の赤ちゃんが生きていたらどんな人生が送れたんだろう）と思うと、無念で涙が出そうでした。公墓を建ててくれた中国に対して、日本の自治体の首長からの感謝状やお土産品が沢山展示されているというのに、最近の日中間の緊張でピリピリした雰囲気。平井さんはバラのリースと『憲法９条』をやっと供えましたが、写真を写すことも許されず、暁子さんは「悲しいわ」とおっしゃっていました。（安倍首相が不信感の原因だ）

今回、職業軍人だった亡き父の赴任先、ハルピンと牡丹江を訪れました。穆陵（ウーリン）では戦闘で遺骨がいっぱいだったので山の上に碑を建て、年一回墓参が行われている。興源（イーリン）は「岸壁の母」の息子が戦死した所だ等、分かりました。

戦争は二度とするものではないと痛感した旅行でした。企画、運営して下さったすべての方々に深く感謝します。もちろん暁子さんには大感謝！です。

2016年カレンダー
「中国悠久の旅」販売開始
Ｂ３判13枚綴り　定価1200円

（税込・送料別）
お申し込みは府連事務所まで

中国東北地方（旧満州）の平和・友好訪問を終えて

堺支部　浅田　勝美

中国の東北地方は想像以上に宏大で、トウモロコシ畑と黄金色した稲穂の田んぼが地平線の果てまで延々と続いていました。バスで高速道路を時速九十ｋｍのスピードで五時間近く走りましたが、まだまだ続いています。車窓から見る夕陽は、一時間近く沈みません。農地で働く人の姿は見あたりません。農作業は機械化され、収穫作業が大型機械を使って、もうすぐ始まるという説明がガイドからありました。

１９３２年から始まった二十カ年で１００万戸五百万人移住の国策。「一戸あたり二十町歩の土地を与える」と宣伝。関東軍七十万人に守られて全国から約三十万人の満蒙開拓団を此の地に入植させたことは驚きでした。あまりにも遠く、あまりにも宏大・・・なにより他国の領土。

「転進（退却）」「玉砕（戦死）」など戦争中は真実を隠蔽する言葉が氾濫していましたが「満蒙開拓団」もそのひとつです。私も最初は、ブラジル移民のように荒野を開拓して田畑にすると思っていましたが、そうではなかったのです。中国の農民が開拓した土地をただ同然の値段で強制的に買収して開拓団に与えたのです。住居は、彼ら農民を追い出して確保したものです。開拓団は侵略者だったのです。

大本営は、ソ連が参戦すれば関東軍が満洲を撤退することを１９４５年五月に決めていました。八月九日ソ連軍が満洲に侵攻ました。開拓団の方々は、国に捨てられ悲惨な状況に追いやられ戦争の被害者になりました。そして八月十五日終戦。国は、彼らをだまし見捨てたのです。

方正県に開拓団の日本人公墓がありました。中国政府は「開拓団の人たちも戦争の犠牲者」として公費をつかって立派な墓を建立しました。

旧満洲には、日本が満洲侵略をした遺跡・証拠が数多く残っています。現地に来てみて、侵略の規模と被害があまりにも大きいことに圧倒されます。当時の日本の指導者達の罪の大きさと深さを実感しました。

そのような侵略の歴史の中で長谷川テルさんの存在は、日本人として嬉しく一抹の光明を見るようです。テルさんは、今も中国の人々に敬愛され語り継がれていることを知りました。参加者全員で佳木斯市にあるテルさんのお墓参りをしました。その後、長谷川暁子さんと共に副市長と交流出来た事は、今後の日中友好・交流に大きな希望を託す礎になると思いました。

歴史をしっかりと学び教訓をくみ取り、日中不再戦・平和と友好を確かなものにして行かなければならないと改めて思いました。

（浅田さんの感想文から一部掲載しました。全文は感想文集に掲載します。編集担当）

陳代文副市長と長谷川暁子さん

牡丹江・北山公園抗日戦争記念碑

東大阪上映会 続報

八月二九日の「望郷の鐘」上映会に７６７名が参加しました。当日の朝の部はほぼ満席、昼の部は約三〇〇人、夜の部は天候が悪化、足下が悪い中でもたくさん参加してくださいました。

実行委員会は六回開催、小冊子「激動の中国で暮らして」を６５０冊作成し、市民との対話を広げる武器になりました。七月の「戦争展」にもコーナーを設け普及に取り組みました。大雨の中、若者を対象にした講演会には日中の支部役員二名が中国での戦争体験を語りました。

「映画を見て良かった。国民をだます者が悪いが、だまされる者も悪い。安倍政権にだまされないように学び頑張ろう」など多くの感想が寄せられました。（熊原）

中国百科検定試験

九月二七日、第二回中国百科検定試験が全国三二会場で一斉に実施されました。大阪北会場と南会場で二六名が受験しました。受験者から「楽しかった、もっとＰＲすべき、知ることから友好が始まる」などの声が寄せられました。

三級・二級の試験問題の解答を、中国百科検定のホームページに、さらに、日中友好新聞にも掲載されます。合否通知は十月下旬発送予定です。

西支部総会開く

十月四日、日中府連文化教室で、十九名が参加して定期総会が開催されました。議長に森西さんを選出、松原支部長挨拶で開会、小林徳子府連副会長が「マスコミも安倍政権も反中国の動きが強いが、草の根から友好運動を広げよう」とあいさつされました。

平松事務局長が議案を詳しく提案、全参加者から毎月行っている行事などについて発言がありました。十一月末までの組織拡大強化特別期間の取り組みでは、総会前日に一名の入会がありました。引き続き大きく運動を広げることを確認しました。

十八日に特別期間 関西ブロック会議

「組織拡大強化特別期間」では、十一月末までに第六四回大会比で会員・準会員あわせて３００名以上の純増と、２０１６年カレンダーの昨年実績比１５００本増の普及拡大が目標です。これは大会で決定した日中友好新聞の月三回発行の維持と、協会の存続のためにどうしても成し遂げなければならない目標です。

この月間成功のため関西ブロック支部事務局長会議が十八日午後大阪府連文化教室で開催されます。ぜひご参加ください。